

特集

# 産科 婦人科



高知大学医学部周産母子センター 講師  
**池上 信夫**

高知大学医学部産婦人科学教室 教授  
**前田 長正**

地域に根付いた産婦人科医療に貢献したいと思っています

東部地域の周産期医療の充実に向けて努めてまいります。

県立あき総合病院産婦人科部長  
**岡田 真尚**



## ④出産後から小児科専門医による赤ちゃんの診察

総合病院である県立あき総合病院では、出産後から小児科専門医の診察を行なっています。便秘・体重増加の不安、黄疸など気になる症状について相談していただけます。生まれてきた大事な命。万全のサポート体制で守ります。また、糖尿病などの合併症をお持ちの妊婦さんでも、内科医師による妊娠中の指導など、総合病院ならではの全身管理で安心できる出産をサポートします。



## 産婦人科医師

常勤医は1人、非常勤医として高知大学医学部産婦人科より毎週火曜日の午前中と、金曜日の午前中に1名ずつ診療応援医師が派遣されています。

## 助産師

病棟に8名、外来に1名(パート)配置されています。週3回の助産師外来や母乳外来で病棟の助産師が保健指導を行うことによって、外来通院中から助産師と妊婦さんとの関係性を深めています。

## ⑤土曜産科外来スタート!!

お仕事をされている妊婦の方では、平日の病院への来院はなかなかスケジュールが合わない、そんな方に朗報です。働くママがご利用いただきやすいように、昨年11月から第2.4土曜日午前中に土曜産科外来を行なっています。診察担当は高知大学医学部産婦人科医師。予約制となっていますので、お待ちいただく時間も少なくスムーズな診察を受けていただいている。お気軽にご相談ください。



## ③充実の助産師スタッフ。 困った時には何でもご相談を。

医師にも聞きにくい、誰に相談したら良いのかわからない、などなど、妊婦さんが抱えるお悩みはいっぱいです。そんな時に頼りになるのが助産師スタッフ。県立あき総合病院では計9名の助産師を配置。週3回の助産師外来や母乳外来で、病棟助産師も外来通院中から保健指導にあたっています。また、妊婦さんとおなかの赤ちゃんにリラックスいただけるよう、アロマセラピーも行なっています。困った時の心強い味方です。



## 個室(2)



## 個室(1)

個室にはご家族が一緒におくつろぎいただけるよう、ゆとりのある広さになっています。



## 病棟デイルーム

デイルームには陽の光がさんさんと降り注ぎ、暖かくゆっくりとすごせます。

## ちょこっと設備紹介!



## 病棟デイコナー

デイコナーでは安芸の街が一面に見渡せる絶景がご鑑賞いただけます。

当院の産婦人科は、昭和26年7月11日に旧県立安芸病院(内科・外科・産婦人科)が設置されて以降、高知県東部の産婦人科を担う役割を果たしながら東部地域と共に歩んできました。思春期から更年期・老年期と各期の女性の相談に応じています。

お産に関しては、近年少子化が問題となっていますが、東部地域も出産数が年々減少し、安芸保健医療圏内での年間出生数は270件数は85件前後に留まっているのが現状で、6割以上の妊婦さんが中央部地域の産婦人科病院へ通っていることになります。室戸市以東の方だと片道2時間以上かかります。

妊婦さんにとって長距離の通院は負担になります。また、緊急時は遠くのかかりつけの病院まで間に合わない場合もあります。

昨年当院は新病院移転と共に新しいスタートを切りましたが、産婦人科も東部地域のお産を守つてはなりません。安心・安全なお産がサポートできるよう現在取り組んでいる活動や現状について紹介します。

生まれてくる赤ちゃんは地域の宝です

# 地元で安心して出産していただけるように

現在では高知県東部地域で唯一の分娩施設となっている県立あき総合病院。安芸医療圏での年間出生数は270人程度。生まれてくる赤ちゃんはまさに地域の宝です。新病院となった県立あき総合病院では、東部地域の妊婦の方に、地元で安心して出産していただけるように産科医療の充実に力を入れています。



## 「県立あき総合病院でのお産」 一知りたい5つのおすすめ



## ①新しい病室でご家族一緒にくつろぎの空間を。



「病院では人の声が気になって…」などというお声をよく聞きます。新しい産科混合病棟(5病棟)では、妊婦の方がご家族とゆっくり過ごしていただけるように個室を整備しました。内装も病室の雰囲気とは異なり、シャワー／トイレもゆったりと余裕を持たせた設計にしています。ご家族と過ごすプライベート空間を大事にしています。